

# 刈谷市

## 文化財ガイドマップ



県指定無形民俗文化財「万燈祭」

# 刈谷市

## 文化財ガイドマップ



国指定天然記念物「小堤西池のカキツバタ群落」

### 1 万燈祭

【県指定無形民俗文化財】

この祭りは、安永7年(1778)から230年以上の歴史を誇る秋葉社の祭礼で、若者が武者人形をかたどった「万燈」を担ぎ、笛と太鼓のお囃子に合わせて舞う勇壮な祭りで、「天下の奇祭」と呼ばれています。7月の最終土曜日と翌日の日曜日に開催されます。初日を「新祭」、2日目を「本祭」といい、新祭では若者たちが「万燈」を担いで市内を練り歩きます。また、本祭では秋葉社の境内で舞が奉納されます。



### 2 大名行列

【奴のねり市指定無形民俗文化財、有町・新町の山車市指定有形民俗文化財】

江戸時代から続くこの伝統行事は、もとは市原稻荷神社の祭礼として行われていたもので、十万石の格式を持つ「秋田出来守」という架空の殿様が神社の神輿を警護するといった形を表しています。行列には絢爛たる山車も登場し、お祭りに華を添えます。毎年5月3日に開催されます。



### 3 亀城公園・刈谷城址

水野氏が天文2年(1533)に築城した刈谷城の本丸と腰郭(こしぐるわ:本丸より一段低くなったところ)を利用した総合公園です。花見の名所として北部地区の洲原公園と並ぶ刈谷市の2大スポットで、毎年春の3月下旬から4月上旬にわたって盛大に「桜まつり」が開催されます。公園内には各種会合・休憩所として利用される十朋亭があり、付近には刈谷球場、体育館、河川敷グラウンドなどのスポーツ施設も整っています。また、亀城公園南側には、刈谷の近代産業化の礎を築いた豊田佐吉の胸像(市指定史跡)があります。



### 4 椎の木屋敷跡

【市指定史跡】

徳川家康の生母於大の方が岡崎の松平広忠から離縁された後、阿久比の久松俊勝と再婚するまで住んでいたといわれています。平成10年度には、東屋や於大の方の座像を配した庭園として、新たに一体を整備しました。



### 5 松本奎堂碑

【市指定史跡】

松本奎堂は、幕末、天誅組の総裁として倒幕の狼煙をあげました。碑は明治32年(1899)9月、刈谷士族会によって奎堂の旧屋敷跡に建てられたもので、碑文は旧山台藩士で奎堂の旧友であった岡鹿門により書かれました。また、亀城公園には辞世の句といわれている「君がため命死にきと世の人にかたりつきてよ峰の松風」の碑があります。



### 6 穴戸弥四郎碑

【市指定史跡】

天誅組を支えた刈谷藩出身者に、もう一人穴戸弥四郎という人がいます。天誅組の中では合図係を務めたほか、最後は決死隊の副隊長として討幕運動に参加し、鷲家口(わかぐち:現在の奈良県東吉野村)で戦死しました。碑は、弥四郎の生誕地である広小路に建てられています。



### 7 刈谷市郷土資料館

【国登録文化財】

大正末期から昭和初期の建築様式をとどめる亀城小学校旧本館を保存活用して、昭和55年に開館した資料館です。常設展示室には原始、古代～中世、近世～近代に分類された歴史資料、民俗資料が展示されています。建物は、平成11年2月17日に国の登録文化財になりました。[開館時間…9時から17時(無料) 休館日…月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始]



### 8 村上文庫(刈谷市中央図書館内)

【市指定有形文化財】

村上文庫は、刈谷藩御典医村上忠順を中心とした村上家において、購入した書籍や筆写したものです。大正3年に刈谷町の医師穴戸俊治と町議会議員藤井清七によって購入され、当時の刈谷町へ寄贈されました。分類は書誌学者森銃三によって行われ、刈谷町立刈谷図書館(現在の刈谷市中央図書館)開館の礎となりました。[開館時間…9時から18時 休館日…月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、第4金曜日、特別整理日、年末年始]



### 9 楞嚴寺

遠州浜松普濟寺の利和和尚が応永20年(1413)に開いたとされる曹洞宗の寺で、刈谷城を築いた水野家の菩提寺です。家康を生んだあと岡崎から刈谷に帰った於大がしばしば詣でたと伝えられ、阿久比の久松家に再嫁する際、思い出の品々をこの寺に納めたといわれています。境内には刈谷城主水野信元・忠重が眠る水野家廟所(市指定史跡)があります。

於大の肖像画(絹本着色伝通院画像、県指定有形文化財)や於大の母於富の肖像画(絹本着色華陽院画像、市指定有形文化財)などを所蔵しています。



### 10 市原稻荷神社

白雉4年(653)亀狭山に瑞兆(ずいちょう:めでたいしるしのこと)が現れ、その地に社殿を創立したのはじまりと伝えられています。永正年間(1504～1521)に市原の地に移りました。保食神(うけもちのかみ)・倉魂神(うがのみたまのかみ)・大山祇神(おおやまつみのかみ)が祀られています。境内には、文化12年(1815)刈谷藩主土井利以奉納の灯籠、天保10年(1839)に建設された中島秋学句碑(市指定史跡)があります。



### 11 十念寺

浄土宗西山禅林寺派の寺です。本尊である阿弥陀如来坐像と十一面観世音菩薩立像は市指定有形文化財、境内には刈谷藩主土井家廟所(市指定史跡)、天誅組総裁松本奎堂の墓、刈谷の俳人中島秋学の墓もあります。



### 12 宮城道雄供養塔

【市指定史跡】

「春の海」を作曲した作曲家宮城道雄は、大阪・神戸・京都など関西での演奏旅行のため夜行急行「銀河」に乗りましたが、昭和31年6月25日未明、刈谷駅東で列車から落ちて死亡しました。供養塔は三重宝塔で、昭和32年5月に刈谷市・宮城会・日本人会の三者によって転落場所近くに建てられました。



### 13 刈谷西部の縄文遺跡

【県指定史跡】

#### a 芋川遺跡(一ツ木町)…縄文時代中期から奈良時代にかけての複合遺跡。縄文時代の土壌墓からは、仰臥屈葬による女性の骨が発見されました。平成12年度に2,126㎡が芋川公園として整備・保存されました。



#### b ハツ崎貝塚(小山町)…逢妻川左岸にある市内最古の貝塚で、縄文時代早期後半のものと考えられています。発掘調査では、縄文時代中期から古墳・奈良・平安時代にわたる土器や石器、骨角器なども出土しました。ハツ崎公園内に保存されています。



#### c 天子神社貝塚(小山町)…縄文時代後・晩期の貝塚で、天子神社境内を中心に広がっています。ハイガイ、マガキ、アカニシなどの貝や獣骨のほか、埋葬人骨5体、土器、石器、骨角器なども出土しました。

#### d 山の神遺跡(山池町)…縄文時代中期の遺跡で、昭和29年刈谷東中学校の校庭において竪穴住居跡が発見されました。住居跡は、中央に炉跡をもつ一辺が4m余りの隅丸方形で、土器、打製石斧、無蓋石磯、石錘などが出土しました。

#### e 本刈谷貝塚(天王町)…縄文時代晩期の貝塚で、本刈谷神社境内を中心に広がっています。ハイガイを主とした貝塚で、10数体の埋葬人骨、シカやイノシシの骨などが発見されました。また、やや厚くした口の部分に押し引文・平行線文・波状文などの文様をつける土器は、縄文晩期前葉の西三河地方の土器の指標となるもので、「元刈谷式土器」といわれています。

### 14 小堤西池のカキツバタ群落

【国指定天然記念物】

刈谷市の最北部にある面積20,330㎡の小堤西池は、京都市大田の沢、鳥取県岩美町の唐川と並ぶ日本三大カキツバタ自生地の一つで、昭和13年に国の天然記念物に指定されました。花の見頃は、例年5月中旬から下旬です。



### 15 鎌倉街道伝承地

【市指定史跡】

鎌倉街道というのは、徳川家康が慶長6年(1601)に東海道宿駅の制を定めて新しく整えた東海道と区別するために、それ以前の東海道を呼んだものです。この鎌倉街道は、今の西境町から東境町を通って知立市の八橋に通じていましたが、現在では祖母神社境内にわずかにその面影が残っているのみとなりました。



### 16 東海道

江戸時代の5街道中、最も賑わった東海道は、江戸の日本橋から京の三条大橋までの125里(491km)の街道です。江戸時代の紀行文には、池鯉鮒宿と鳴海宿の間にあった「立場」(たば:お茶屋の事)や名物「いも川うどん」のことが紹介されています。現在でも今川・岡岡地内には当時の面影が残っています。



### 17 野田雨乞笠おどり

【市指定無形民俗文化財】

正徳2年(1712)から野田八幡宮で引き継がれてきたこの祭りは、雨乞いの儀式として神前に御酒と御燈を供え、二人一組の踊り手が太鼓を中に向かい合い、浴衣に赤いタスキ、一文字菅笠の姿で両手に桐の木で作った「つつろ」という短いバチを持って踊ります。また、吹き鳴らされるホラ貝に合わせ、踊り手が見せる所作にも趣があります。8月下旬の日曜日に開催されます。



### 19 加藤与五郎展示室(南部生涯学習センター「たんぼぼ」内)

日本のエジソン、フェライトの父とたわれる加藤与五郎の業績を紹介する展示室です。平成13年に、南部生涯学習センター「たんぼぼ」が与五郎の故郷である野田町にオープンすると同時に開設されました。展示室には、フェライトの実物や発明の応用例、熟着や大礼服、愛用品の数々など100点余が映像とともに展示され、与五郎が大切にしていた「創造教育の心」を伝えています。[開館時間…9時から21時(無料) 休館日…月曜日、年末年始]



### 18 依佐美送信所記念館(フローラルガーデンよさみ内)

依佐美送信所は昭和4年に建設された、当時世界最大級の無線送信施設で、長波によるヨーロッパへの送信を日本で初めて行うなど、長・短波ともに日本の国際通信施設として重要な役割を果たしました。第2次世界大戦後の米軍の接収、平成6年の日本返還を経て同18年に解体されましたが、送信機一式は同19年4月に開館した記念館へ移設され、保存・展示されています。[開館時間…9時から17時(無料) 休館日…月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始]



### 20 願行寺

刈谷藩は寛政4年(1792)に一部村となり、重原村を始め小堤江村・半城土村などが福島藩領になりました。福島藩は自領となった村を支配するために、重原村に陣屋を設けました。願行寺の山門は、明治4年(1871)の廃藩により不要となった「重原陣屋の門」(市指定有形文化財)を半城土村が買い受け、同7年に移築したものです。



### 21 野田史料館

野田地区が建設した地区の史料館で、昭和56年に開館しました。江戸時代から明治時代にかけての野田村の古文書を中心に、野田八幡宮に伝わる刀剣類、甲冑類なども保管されています。水野勝成奉納の総髪、櫛、野田村文書(いずれも市指定有形文化財)、野田八幡宮絵馬群(市指定有形民俗文化財)が所蔵されています。[開館日…第1日曜日、毎月15日、第4土曜日の9時から12時(無料)]



# 刈谷市文化財マップ



刈谷市

歴史の小径

鎌倉街道周辺 (東境・西境)



[鎌倉街道]

刈谷市

歴史の小径

東海道 (今川・今岡・一里山・一ツ木)



[東海道]

刈谷市

歴史の小径

(高津波・小山)



[高津波・小山]

刈谷市

歴史の小径

[井ヶ谷]



[井ヶ谷]

刈谷市

歴史の小径

城下町



[城下町]

刈谷市

歴史の小径

(築地・一ツ木・恩田)



[築地・一ツ木・恩田]

刈谷市

歴史の小径

城下町周辺



[城下町周辺]

刈谷市

歴史の小径

(小垣江)



[小垣江]

文化財一覧

番号	名称	索引
①	万燈祭	J-3
②	大名行列	J-2
③	亀城公園・刈谷城址	J-2
④	椎の木屋敷跡	J-3
⑤	松本奎堂碑	J-2
⑥	穴戸弥四郎碑	J-3
⑦	刈谷市郷土資料館	J-2
⑧	村上文庫	J-4
⑨	楞巖寺	K-3
⑩	市原稻荷神社	J-2
⑪	十念寺	J-3
⑫	宮城道雄供養塔	J-5
⑬a	芋川遺跡	F-5
⑬b	八ツ崎貝塚	G-4
⑬c	天子神社貝塚	G-3
⑬d	山の神遺跡	I-3
⑬e	本刈谷貝塚	K-3
⑭	小堤西池のカツバタ群落	A-9
⑮	鎌倉街道伝承地	C-7
⑯	東海道	E-5
⑰	野田雨乞笠おどり	K-6
⑱	依佐美送信所記念館	L-5
⑲	加藤与五郎展示室	K-6
⑳	願行寺	J-6
㉑	野田史料館	K-6

刈谷市

歴史の小径

(重原・半城土・野田)



[重原・半城土・野田]

〈問い合わせ先〉 刈谷市教育委員会  
文化振興課  
〒448-8501 刈谷市東陽町1-1  
☎ (0566) 62-1037  
刈谷市役所ホームページ  
<http://www.city.kariya.aichi.jp/>

1 : 25,000

